



Back to

0000  
1969  
2070

Shibushi

## 南九州の国際物流拠点

〈志布志港〉

古くから活発な内外交易が行われてきた志布志港。

国内有数の農畜産地帯を支える

南九州地域の国際物流拠点として

さらなる発展が期待されています。

志布志港は、九州南東部の志布志湾内にある重要港湾で、鹿児島県東部地域と宮崎県南部を主な背後圏とする港湾です。

志布志港の歴史は古く、平安時代末期に開かれた大隅、薩摩、日向に跨る広大な莊園・島津莊の唯一の水門(港)として、この地の発展に大きな足跡を残しています。海上交易が盛んになった江戸時代には、内外交易でひらけ、「志布志千軒の町」とうたわれるほどの町並みを形成し、活況を呈していました。

しかし、明治以降になると全国的に海上交易が活発になるなか、志布志港は、港湾施設の整備が進められることなく、一時、交易港としての機能を失ってしまいました。そのようななか、九州南西部の交通の要地として、志布志港修築についての要望が次第に高まり、大正8年に築港工事が実現しました。起工式当日には、浜辺を埋め



①志布志港全景(平成23年) ②旧志布志町の志布志港(昭和37年)  
 ③志布志・大阪間を毎日運航するフェリーさんふらわあ ④昭和46年当時の志布志港 ⑤コンテナ荷役作業を行うガントリークレーン

尽くした大群衆から万歳の大歓声があがったと伝えられています。

近年に至って、志布志港は南九州地域の物流拠点港湾としてさらに整備が進められ、昭和44年4月に、国の重要港湾に指定。昭和62年4月には、貿易港としての開港指定を受け、C-I-Q機能(税関・出入国管理・検疫)を完備しました。以後、志布志港と国内主要港(東京、大阪、那覇など)や中国、台湾、韓国、フィリピンなどのアジア各国とを結ぶ定期航路が開設されるとともに、平成9年度から5万トン級の貨物船が接岸可能な水深14mの岸壁を有する国際コンテナターミナルへ向けた整備が進められ、平成21年3月から供用開始されています。より大型の貨物船の受け入れが可能になることで、背後圏となっている南九州の農畜産業における飼料輸送コスト削減につながり、農畜産業はもちろん、それに関連する加工業などをはじめとした地域産業全体の発展に大きく寄与しています。

さらに平成23年5月、志布志港は、大型船による穀物(とうもろこし)の一括大量輸送を行うための拠点港となる「国際バルク(※)戦略港湾」の1つに選定されました。今後も日本有数の畜産地帯をカバーする飼料供給基地として、ますます発展していくことが期待されます。

※バルク＝梱包をせずに、船に直接積み込むばら積み貨物